

福祉サービス第三者評価
評価結果報告書
令和元年度

有限会社KBC
市場ポケット保育園

株式会社フィールズ

かながわ福祉サービス第三者評価推進機構 認証第6号

目次

評価結果総括

■ 評価方法	1
■ 総合評価	2
■ 評価領域ごとの特記事項	5
人権の尊重	
意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供	
サービスマネジメントシステムの確立	
地域との交流、連携	
運営上の透明性の確保と継続性	
職員の資質向上	

分類別評価結果

■ 子ども本人の尊重	8
■ 保育の実施内容	11
■ 地域支援機能	16
■ 開かれた運営	17
■ 人材育成、援助技術の向上	18
■ 経営管理	20

利用者本人調査

■ 利用者本人調査結果	21
-------------	----

家族アンケート結果

■ アンケートの概要	25
■ アンケート結果	26

事業者コメント

■ 事業者からのコメント	31
--------------	----

評価結果総括

法人名 有限会社 KBC
事業所名 市場ポケット保育園
施設長名 青木 真紀子

評価方法

自己評価方法

実施期間 令和元年6月3日～令和元年8月30日
実施方法 全職員が合議して自己評価を実施し、施設としてまとめた。

評価調査員による評価方法

実施日 令和元年10月2日、令和元年10月9日
実施方法 評価調査員が訪問し、施設の見学、資料確認及びヒアリング等で実施した。

利用者家族アンケート実施方法

実施期間 令和元年8月5日～令和元年9月2日
実施方法 施設から利用者家族へ配布し、返送は直接家族より評価機関に郵送してもらった。

利用者本人調査方法

実施日 令和元年10月2日、令和元年10月9日
実施方法 訪問調査時に保育見学、食事や活動場면을観察して行った。

□ 総合評価（優れている点、独自に取り組んでいる点、改善すべき事項）

〔施設の概要〕

市場ポケット保育園は、京浜急行線「鶴見市場」駅から徒歩1分程と非常に利便性の良い、線路沿いにあります。建物の1階一部にコンビニエンスストアが入っている4階建てビルの1階（玄関フロアのみ）から4階（屋上園庭）を使用し、有限会社KBCが運営を行い、鶴見ポケット保育園の分園として平成28年4月1日に開園しています。

0歳児から就学前児童を受け入れ、定員は56名で現在51名が在籍しています。園長は、姉妹園の鶴見ポケット保育園の園長を兼任しており、もう一つの姉妹園である生麦ポケット保育園の3園で常に協力連携を図っています。

環境面の特徴として、0、1歳児クラス（2階）、4、5歳児（3階）クラスは2クラスずつオープンフロアでの保育を行い、2歳児クラス（2階）3歳児クラス（3階）はクラスごとの保育を行っています。4階には屋上庭園が設置され、近隣には大小さまざまな公園や広場などがあり、子どもの年齢や活動に応じて行き先を選んでいます。園の窓、散歩の通り道、広場などいろいろな場所で、子どもたちがお気に入りの電車の行き来を眺めることができます。

《優れている点》

1. 日常的な異年齢活動で子ども同士が関わり合い、育ち合っています

日々の活動や遊びを通して、子ども同士の関係が育つ異年齢活動が行われています。年間計画に基づいた計画的な交流だけではなく、日常的に異年齢の子ども同士の関わり合い、育ちあいの場を設けています。

朝の会とお帰りの会では、全クラスが3階の保育室に集合します。2階の乳児クラスの子どもは異なった環境で多くの子どもとのかかわりあいを体験します。乳児は自分で階段を昇ったり、保育士に手をつないでもらったり、抱っこしてもらいながら保育室に集まります。

幼児は歌に振りをつけながら歌い、「おはようございます」などの挨拶をして、低年齢児はそれを見ながら自然に模倣し、興味・関心も育んでいきます。

また、異年齢で散歩に出かける、食事を一緒に摂るなど、子ども同士協力し合う場面も作り、年上の役割を自然と担えるようにして、年下の子どもは年上の子どもに憧れを持って過ごせるようにしています。4、5歳児保育室は仕切りのないオープンフロアで、年齢別の活動時もお互いの姿が見えるようになっています。時には真似をしたり、時にはライバルかきょうだいのような雰囲気になったりと、刺激し合って過ごすことができます。

定員56名の「ポケットの中のようなぬくもり溢れる温かさや安心感」の保育理念のような家庭的な環境の中で、子どもたちを中心にした保育が実践されています。

2. 子どもの育ちを保護者と共に支える園の取り組みに高い満足度が得られています

職員は、職員会議等で理念・方針・目標に沿った保育について話し合っているほか、園長が作成した「園長から」「保育園児のつぶやき・・・」などを全職員に配付しています。内容は、自らの保育士経験から培った保育観や保育への思いを表したもので、方針の共通理解のためのツールとして読み合わせをし、活用しています。

園長の力強いリーダーシップの下、副園長、保育士（常勤・非常勤）、栄養士、調理職員、事務員、本部の看護師・担当者といった全職員が職種に拘らず、子どもに関わる「保育者」として日常的に連携を図り、子どもの育ちを支えています。保護者との協力・連携についても、日ごろから子どもの情報を共有し合うことは園の保育や保護者の子育てに大切であると考え、送迎時の個別のやりとりでも子どもの1日の様子や職員が発見したエピソードなど、具体的に伝えるよう配慮しています。

第三者評価の保護者アンケートにおいて、総合満足度が100%を始め、「あなたのお子さんが大切にされているか」「送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については」など殆どの質問項目が100%あるいはそれに近い回答が寄せられていることから園の丁寧な取り組みが窺えます。

《努力・工夫している点》

1. 子どもの育ちを記録から丁寧に追える仕組みを作り、保育の質の向上に努めています

「子どもたちひとりひとりの個性に寄り添いながら、認め、褒めて考えて、共に成長を喜ぶ」の保育方針の実践のため、記録、振り返り、自己評価を丁寧に行っています。一人一人の子どもの状況や育ちを話し合い、発達の個人差を踏まえた上で、個々に見合った育ちや保育につながるよう全園児の個別指導計画を作成しています。全クラスの保育日誌には個別欄があり、子どものエピソードやトピックがあった時に記録をしており、子どもの育ちを記録から丁寧に追える仕組みを作っています。

職員は、クラスの保育のための自らの実践の振り返りと評価を積み重ねています。さらに全職員が毎月、自己評価表を用いて、保育の理念・保育観、実際の保育の内容について自己評価をして質の向上に取り組んでいます。

《課題や改善することが期待される事項》

1. 体系的な人材育成計画の作成

体系的に人材育成を推進するための期待水準などを示した人材育成計画の確認ができません。人材育成計画を作成した後は、それを職員に示し共有することが必要です。職員に期待する人事基準を示し、連動させて職員のキャリア形成やスキルアップに見通しを持って取り組めるような検討が期待されます。

2. 中長期計画および単年度の事業計画の作成

園長は、鶴見区の園長会、法人の役員会議（代表、姉妹園の園長、副園長、看護師）で事業運営にかかわる情報の収集をし、分析をしていますが、園の中長期的な方向性としての計画が明記されていません。中期計画に基づいた単年度の事業計画の作成が必要です。園の事業の方向性を明確にしていくための、計画の作成と職員との共有が期待されます。

□ 評価領域ごとの特記事項

1. 人権の尊重

- ① 法人内の3保育園共通の保育理念のもと、「子どもたちひとりひとりの個性に寄り添いながら、認め、褒めて考えて、共に成長を喜ぶ」という保育方針を定め、保育目標を「ひとりひとりの個性を尊重し、その個別の状況に応じたきめ細かな、子ども支援と家庭支援」「心と体の健康を大切にし、情緒豊かな人間関係の構築」「よく食べ、良く遊び、良く眠る 基本的な生活習慣の確立」とし、いずれも利用者本人を尊重したものとなっています。職員は園内掲示の確認、職員会議で理念・方針・目標に沿った保育について話し合っています。
- ② 子どもに対し、威圧的な言葉遣い、呼び捨て、無視、叱り方をし、子どもの人格や自尊心を傷つけるような保育をしてはいけない事を園長がプリント等で職員に示しています。職員は子どもの人格を尊重した声掛けや関わりを共通確認し、意識して保育を行っています。園長は更に必要な事項が生じた時はプリントを作り読み合わせや職員会議で直接伝え、職員が日々子どもへの人格を尊重した保育を意識して行うように指導しています。
- ③ 個人情報の取り扱いについては運営規定の“取り組みのガイドライン”に載っており、全職員で共通な認識として保育を行っています。実習生やボランティアに対しても守秘義務を伝えてあります。又、個人情報の取り扱いについては保護者に説明して入園時に了解を得ています。書類は施錠できるロッカーで保管・管理をしています。

2. 意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ① 全体的な計画としての保育課程に基づき年間指導計画を作成し、月間指導計画、週案につなげています。その他に、食育計画、保健計画を作成しています。言葉の理解ができる年齢では、廃材遊び、縄跳び、独楽など子どもの発想、興味関心を示したものなど子どもからの発信を十分に受容しています。また、子どもの遊びこんでいる様子や表情のほか、喃語、指差しに対しても子どもの思いを汲み取っており、個別対応を重視しています。子どもの行動には意味のあることを職員は理解し、ゆったり向き合い、受け止めるよう努め、計画に柔軟性を持たせています。
- ② 清掃・衛生に関するマニュアル、手順書に基づいた毎日の清掃を行い、清潔な状態を保っています。園舎内の窓を適宜開け風が通るようにしています。温・湿度は出席簿と安全点検表に毎日記録をしています。保育室の窓は大きく、すべての保育室に陽光を取り入れることができます。職員の声も環境と考え、大きさやトーンに注意しています。音楽も騒音にならないよう、適切な音量に配慮をしています。
- ③ 一人一人の子どもの状況や育ちを話し合い、発達個人差を踏まえた上で、個々に見合った育ちや保育につながるよう全園児の個別指導計画を作成しています。さらに全クラスの日誌にも個別欄があり、その日の子どもの様子やトピックなどの記録ができるようになっており、子どもの育ちを記録から丁寧に追える仕組みを作っています。
- ④ 保護者の保育参加については子どもの様子を見る参観とは違い、親子で楽しんで園生活を知ってもらう機会として参加形式で行っています。各クラスの保育内容で参加してもらい、散歩に一緒に行ったり、保育士役になり紙芝居を読むなど親子で楽しむ場となっています。

3. サービスマネジメントシステムの確立

- ① 子どもの経過記録は3ヶ月ごとに作成しています。子どもの記録はクラスごとにファイルしており、職員はいつでも見ることができます。進級時には担任が、経過記録を基にして子どもの性格や特徴など、配慮すべき事項を次の担任に伝えています。転園があった場合、必要に応じて口頭で情報を伝えています。
- ② 障がいのある子ども、アレルギーのある子ども、外国籍の子どもなど、特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があり、受け入れています。毎週開催の乳児、幼児会議、毎月の職員会議の中でケース検討を行い、現時点での様子、配慮や関わり方が適切かどうか話し合っており、会議録に残しています。
- ③ 保護者からの意見、要望は、意見箱、懇談会、個別面談のほか、保護者との普段のコミュニケーションを密に図ることで把握するよう努めています。事例はありませんが、園単独での対応が難しい場合は、法人本部、第三者委員、鶴見区こども家庭支援課と連携を図っていく体制を整えています。
- ④ 健康管理、衛生管理、安全管理に関する各マニュアルを整備し、対応しています。行政、医療機関、児童相談所など必要な関係機関・地域の団体をリスト化しています。

4. 地域との交流・連携

- ① 地域への子育て支援事業として、登録制の一時保育を行っています。0～2歳児を対象に毎月第3水曜日の午前10時～11時30分（0歳児は10時～10時45分）に同じ年齢のクラスに入って遊び、給食も食べる交流保育、夏のプール遊び、栄養士や看護師による講座をいずれも定員制で行っています。
- ② 4、5歳児が高齢者のデイサービスに出向き交流を図っています。地区イベントでは劇を行っています。公共交通機関を使い鶴見区内の姉妹園に行くこともあります。園の入口に隣接しているコンビニエンスストアからは地域の情報提供や子どもの災害時対応で協力頂くなど交流があります。
- ③ 利用希望者の問い合わせや見学については園長や副園長が担当しており、1回10人程で年10回程度保育に支障がない範囲と時間で受け入れを行っています。見学会は1時間ほどで、希望者は書類に記入してもらい、パンフレットに沿って園の紹介や説明をした後、各クラスを案内し質問に応じています。見学者の中にはその後に育児に関しての相談にくる場合もあります。

5. 運営上の透明性の確保と継続性

- ① 職員が守るべき法・規範・倫理などは「就業規則」に示し、職員には入職時に説明しています。また、近年頻発している保育所あるいは子どもに対する不正、不適切な事案については、緊急会議を開催して、情報の共有、意識の再確認をしています。法人としての考え方についても職員に周知しています。
- ② 園長は法人内の鶴見ポケット保育園の園長を兼務しています。園在籍の副園長と連携を密に図り、運営に支障が起きないようにしています。今年度は、主任がクラスを持ちながらの勤務で、自主的な状況把握の場は持ちにくくなっていますが、職員同士が積極的にコミュニケーションや情報共有ができるよう、職員会議、乳児、幼児会議などの開催頻度を状況に応じて調整しています。さらに副園長、フリーの常勤職員と協力しながら個々の職員の業務状況を把握し、少しずつ指導や助言を行ったり、相談に乗ったりしています。
- ③ 園長は、鶴見区の園長会、法人の役員会議（代表、姉妹園の園長、副園長、看護師）で事業運営にかかわる情報の収集をし、分析をしています。重要な情報は、職員会議で職員に周知しています。園の運営面での重要な改善課題は全職員で検討の上、改善に努めることとしています。

6. 職員の資質向上の促進

- ① 年間、月間の指導計画に対する自己評価のほか、毎月、保育サービス向上のための職員自己評価を行い、自らの保育を振り返っており、自己評価を計画的に行う仕組みになっています。今年度、第三者評価受審での自己評価にも取り組んでいます。
- ② クラス運営に関しては、自分のクラスに何が必要なのか、子どもの発達に適切な指導になっているかなど職員は責任を持って対応しています。園長は職員に対し、常にオリジナル保育を身につけて欲しいと話しています。判断が難しい場合の最終的な結果責任は、園長が負う体制になっています。
- ③ 園長との面談で満足度や要望などの把握に努めているほか、職員に気づきを与えるような言葉かけを心がけ、モチベーションの維持、向上への働きかけを行っています。

分類別評価結果（および理由）

※ ひょう太マークは各項目において下記の水準をあらわしています。また、各項目ごとにひょう太の数の理由のコメントがあります

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

I 子ども本人の尊重

I-1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成



- ① 法人内の3保育園共通で「ポケットの中のぬくもり溢れる温かさと安心感」を主旨とした保育理念を掲げています。保育方針は「子どもたちひとりひとりの個性に寄り添いながら、認め、褒めて考えて、共に成長を喜ぶ」を定め、保育目標を「ひとりひとりの個性を尊重し、その個別の状況に応じたきめ細かな、子ども支援と家庭支援」「心と体の健康を大切にし、情緒豊かな人間関係の構築」「よく食べ、良く遊び、良く眠る 基本的な生活習慣の確立」とし、いずれも利用者本人を尊重したものとなっています。職員は園内掲示の確認、職員会議で理念・方針・目標に沿った保育について話し合っているほか、園長が、自らの保育士経験から培った保育観を表した「園長から」「保育園児のつぶやき・・・」などを全職員に配付しています。それらを園の保育の方向性とし、職員は実践につなげています。
- ② 全体的な計画としての保育課程を作成しています。昨年度の保育所保育指針の改定にあたり、「三法令改定のポイント」資料を作成し、職員で話し合う機会を持ちました。今年度も話し合う機会を持ち、来年度の「全体的な計画」作成へとつなげることが望まれます。保護者には年齢ごとの保育計画を明記した入園のしおりを配付しています。クラス懇談会で、担任が子どもの育ちやクラスの保育の流れについて説明をしています。
- ③ 全体的な計画としての保育課程に基づき年間指導計画を作成し、月間指導計画、週案につなげています。その他に、食育計画、保健計画を作成しています。言葉の理解ができる年齢では、廃材遊び、縄跳び、独楽など子どもの発想、興味関心を示したものなど子どもからの発信を十分に受容しています。また、子どもの遊びこんでいる様子や表情のほか、喃語、指差しに対しても子どもの思いを汲み取っており、個別対応を重視しています。子どもの行動には意味のあることを職員は理解し、ゆったり向き合い、受け止めるよう努め、計画に柔軟性を持たせています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



- ① 個別面談や保護者からの提出書類で得た子どもの性格や様子を参考に、1週間を目安とした慣らし保育を行い、0～2歳児の保護者とは個別の連絡帳をやりとりして、園生活を無理なく始められるようにしています。新入園児を迎えて不安になる在園児への配慮については、年度末に保育室を移り、環境変化で子どもの負担が大きくなるようにしたり、フォローに入る職員を厚くしたりしています。

- ② 年間指導計画を基に、クラスごとに月間指導計画、週案を作成しています。職員会議内でカリキュラム会議があり、担任だけでなく職員間で子どもの発達状況を話し合い、指導計画に盛り込んでいます。
- ③ 0歳児保育において、職員との安定した関係性の中、スキンシップを取りながら生活や遊びが充実するようにしています。職員は優しく穏やかな言葉かけ、ゆったりとした関わりをしており、子どもが職員を信頼し、安心して過ごしている様子が見えます。歩くことがしっかりしてきた子どもは散歩に出かけています。月齢や一人一人の成長に合わせた玩具のほか、生活用具などの用意はありますが、普段は物入れにしまい、職員が判断して出し入れをしています。子どもの興味や好奇心の育ちを促すため、子どもの手の届く場所に置き、自分で手にすることができるような環境構成について検討が望まれます。
- ④ 1、2歳児保育では、職員は、一人一人の成長発達や、自分でしようとする意欲や甘えの気持ちに合わせて、子どもの気持ちに寄り添いながら、できた時は十分に褒めています。毎月の指導計画の中で、散歩や公園遊びなど子どもの発達に合わせて全身を使った遊びを取り入れています。おもちゃの取り合いや、たたく、噛むなど成長過程での行動に注意しています。友達に言葉で自分の気持ちを上手く伝えられない時は、職員が仲立ちをしています。
- ⑤ 3歳児以上の保育は集団遊びを取り入れながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさや充実感を味わえるようにしています。行事や製作活動の時などに友達とイメージを広げながら思いを共有し、経験を通して興味関心を高めています。4、5歳児クラスはオープンフロアでの保育ですが、基本はクラスごとに活動をし、発達の違いに配慮しています。

I-3 快適な施設環境の確保



- ① 清掃・衛生に関するマニュアル、手順書に基づいた毎日の清掃（沐浴設備やシャワー室の消毒含む）をし、清潔な状態を保っています。園舎内の窓を適宜開け風が通るようにしています。温・湿度は出席簿と安全点検表に毎日記録をしています。保育室の窓は大きく、すべての保育室に陽光を取り入れることができます。職員の声も環境と考え、大きさやトーンに注意しています。音楽も騒音にならないよう、適切な音量に配慮をしています。
- ② 低年齢児クラスは、保育室での活動を高月齢、低月齢で分けることもあります。朝の会、帰りの会では全園児が交流しています。廊下の一角に絵本コーナーがあり、異年齢で関わることができます。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



- ① 一人一人の子どもの状況や育ちを話し合い、発達の個人差を踏まえた上で、個々に見合った育ちや保育につながるよう全園児の個別指導計画を作成しています。さらに全クラスの日誌にも個別欄があり、その日の子どもの様子やトピックなどの記録ができるようになっており、子どもの育ちを記録から丁寧に追える仕組みを作っています。
- ② 経過記録は3ヶ月ごとに作成しています。子どもの記録はクラスごとにファイルしてあり、職員はいつでも見ることができます。進級時には担任が、経過記録を基にして子どもの性格や特徴など、配慮すべき事項を次の担任に伝えています。転園があった場合、必要に応じて口頭で情報を伝えています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- ① 障がいのある子ども、アレルギーのある子ども、外国籍の子どもなど、特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れる姿勢があり、受け入れています。毎週開催の乳児、幼児会議、毎月の職員会議の中でケース検討を行い、現時点での様子、配慮や関わり方が適切かどうか話し合っ、会議録に残しています。
- ② 集団生活を共に過ごす中で、子ども同士のかかわり合いを見守りながら互いを認め合い、育ちあえるようにしています。障がいの有無にかかわらず、一人一人が居心地の良い環境作りに努めています。
- ③ 虐待については、朝の子どもの表情や着替え時に良く観ることを職員間で確認しています。事例はありませんが、疑わしい場合の段階から、法人本部、鶴見区こども家庭支援課などと連携を図ることができます。
- ④ 食物アレルギーのある子どもの除去食提供の際は、色を分けた専用のトレイ、食器、名札、布巾を使用しています。調理員と担任とのアレルギー表での確認後、配膳時は複数の職員で再度声を出し確認をしています。アレルゲンは食事のラップにも記入しています。食事のテーブルを別にし、担任がかたわらに座り、誤食のないようにしています。
- ⑤ 外国籍や帰国子女など、配慮が必要な場合には文化、生活習慣などを話し合うこととしています。言葉でのコミュニケーションが難しい保護者には絵カード、身振り手振りで伝えています。

I-6 苦情解決体制



- ④ 苦情受付担当者は主任、解決責任者は園長で、第三者委員 2 名の氏名、連絡先を入園のしおりと玄関掲示で保護者に知らせています。外部の機関として、かながわ福祉サービス運営適正化委員会を紹介しています。
- ⑤ 保護者からの意見、要望は、意見箱、懇談会、個別面談のほか、保護者との普段のコミュニケーションを密に図ることで把握するよう努めています。今年度、第三者評価受審にあたっての保護者アンケートの結果も参考にしていく予定です。事例はありませんが、園単独での対応が難しい場合は、法人本部、第三者委員、鶴見区こども家庭支援課と連携を図っていく体制を整えています。

Ⅱ 保育の実施内容

Ⅱ-1 保育内容【遊び】



- ① 子どもが落ち着いて主体的に遊べる環境づくりについては発達状態にあわせて各クラス玩具や絵本等が整備されています。1、2歳児クラスでは収納棚にブロック、ままごと、絵本等の年齢にあった玩具や絵本が自分で取り出せるように種類ごとに収納されています。幼児クラスについても同様に収納されていることに加えて、個々の収納箱があり、作りかけの作品や途中まで書いた絵等を収納箱に保管しその後、続きができて遊びの連続性が持てるように工夫され、主体的に遊べる環境づくりが行われています。
- ② 子どもが集団活動や自由遊びの時間を自由な発想で行い、園が大事にしている異年齢保育の場面で一緒に遊ぶ楽しさが持てるよう保育の工夫をしています。集団活動、課題活動では友達との関係や、ルールを守る等の社会性を育てる場を大切にしながら、みんなで一緒に遊ぶ楽しさを大事にして保育しています。自由遊びの時間では子ども自ら好きな遊びを見つけて遊び込んでいけるように各年齢に応じた玩具の用意や援助をしています。幼児は見通しをもって自分で考えることも大事にしており、このようにして一斉活動に偏らないように配慮しています。
- ③ 幼児クラスが屋上庭園のプランターで夏野菜のオクラ、枝豆、トウモロコシを育てています。クッキングではポップコーン、ピザ、コーンポタージュ作りをして食育に繋げています。また電車に乗って畑に行き、芋ほり体験もしています。散歩先の公園ではアリやダンゴムシなど小さな虫に興味を持っています。その他、電車が行き交う線路沿いの道、企業が地域に開放しているエントランス広場、公園の草花や樹木など地域の環境や季節の移り変わりを楽しめるように散歩コースを用意しています。
- ④ 表現活動としては歌やリズムで体を動かすことや絵や文字遊びなど指導計画に基づいて活動を進めています。特に3～5歳児は月1回のダンス教室として法人内の姉妹園まで電車に乗って行き、外部の専門講師からダンスレッスンを受け、楽しみながら遊戯会の出し物に繋げています。ピアノの楽器遊びも行っています。各クラス毎月歌う歌やお絵描き、廃材での制作等各クラスに応じて行い廊下や保育室に飾っています。年齢に応じた表現活動を行い、自分の気持ちを自由に表現できるように配慮しています。
- ⑤ 遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つような配慮として、異年齢保育があります。毎日全クラスで朝と夕方の会を行い、その中で一緒に歌や踊りで異年齢間の関わりが持てるような保育を積極的に行っています。子ども同士のけんか等では乳児の噛みつきやひっかきや幼児の言葉によるケンカ等子ども同士のトラブルは仲立ちしたり、子ども同士で解決できるよう保育士が見守ったりして、子ども同士の関わりが持てるよう配慮しています。
- ⑥ 天気が良ければ毎日散歩に出かけ、積極的に健康づくりを行っています。公園や広場で縄跳び、ボール、鬼ごっこや公園の鉄棒、ブランコ、アスレチック風の固定遊具等、全身を使った遊びができるようにしています。その際は水分補給や虫よけをするなどの対処も行っています。0歳児は散歩に加え、牛乳パックで作った手作り階段や布団の山など保育室内でも全身を使えるようにしています。

Ⅱ-1 保育内容【生活】



- ① 食事に関しては豊かに楽しんで食べることを大切にしています。個々の体調や個人差に応じて食事量の調整を子どもに聞きながら行っています。それによって食べたという満足感に繋げ、好き嫌いについても保育士の声掛けや励ましで少しずつ食べられる場面もあります。また、4、5歳児は配膳や食後片付け等活動をしています。
- ② 季節感を大切に旬の食材を使用しています。毎月行事や季節に因んだメニューがあります。彩りや盛り付けを工夫し、視覚からも食欲が湧くようにしています。誕生会は調理職員が作った小旗を盛り付けに添える等楽しみの場づくりをしています。食材は業者から一括購入をしていますが米や乾物、おやつ類は園で購入しています。水は浄水を使用しています。食器はメラミン樹脂で、耐用年数に応じ、順次交換をする予定です。
- ③ 建物の構造上、2歳児クラスの保育室からトイレの便器が見えます。職員の業務上、食事中にトイレ掃除をしている場面も子どもたちに直接見えてしまう状況もあります。食事の場としての雰囲気作りのために、食事の時にはトイレの入り口に衝立を置くなど配慮の工夫が望まれます。
- ④ 残食があった場合は、給食日誌に記録をしています。調理担当職員は、毎日各クラスの食事の様子、喫食状況を見て回っています。また、職員が気づいたことはその都度栄養士に伝えています。毎月の栄養士会議は給食日誌を基にした話し合いで調理の工夫や献立に反映しています。
- ⑤ 次月度の献立表は月末までに保護者に配付しています。表の中に材料が栄養素別、調味料、エネルギー等に表示され、その月の食に関する啓発コーナーもあります。保育参加の時には味見程度ですが試食も行っています。また、当日の献立は事務室前に展示しています。子どもに人気のメニューのレシピを用意し、自由に持ち帰れるようしています。
- ⑥ 午睡時はカーテンを引き、オルゴールの音色のBGMをかけ、落ち着いた雰囲気を作っています。眠れない子どもは布団で静かにしています。0歳児は5分ごと、1歳児は10分ごと、2歳児は15分ごとに呼吸と姿勢をチェック表に記録をしています。また、5歳児クラスは就学に向け年明けから午睡を減らしています。ワークや製作など静かな遊びを中心に、生活リズムを整えています。
- ⑦ 排泄に関しては個人差があるため個々の成長に合わせて排尿間隔のチェック表を作り確認して対応し、担任不在の時にも活用しています。1、2歳児のトイレトレーニングは家庭での様子も聞きながら連携して少しずつ進め、排泄の自立に繋げています。おもらししてしまった子については年齢に応じ羞恥心や心を傷つけないよう子どもの気持ちを大切に対応しています。
- ⑧ 長時間園で過ごす子どものために夕方からの合同保育は、テーブルと椅子を用意して座って遊べるコーナーや敷物の上でゆったりと絵本が読めるコーナーを設けています。横になって寛ぐことにも配慮しています。お迎えに来た保護者にはクラスごとの引き継ぎ簿を確認して伝え、連絡漏れのないようにしています。合同保育中は子どもへの水分補給に気をつけていますが、補食の提供は行っていません。子ども一人一人のその日の体調や食欲に応じて柔軟に配慮ができる対応について、検討が期待されます。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【健康管理】



- ① 子どもの健康管理については「健康管理マニュアル」をもとに進めています。入園時にそれまでの健康状態の確認を保護者と行っています。日々の中では子どもの受け入れ時に保護者とやりとりのほか、表情や行動を観察し、降園時にはその日の様子を伝え保護者と連携をとっています。予防接種台帳があり、保護者からの情報を得て、その都度追記をしているほか、年に1度返却して追記してもらっています。看護師は法人本部所属で、必要に応じて子どもの健康について相談や指示を受けることができます。
- ② 健康診断、歯科健診については年2回実施しています。園医による健診時は保護者に子どもの気になる症状や診てもらいたい事を事前に聞き、健診後に園医からの回答を伝えています。歯科健診で歯みがき指導を受けています。1、2歳児は食後、幼児は食後とおやつ後に毎日歯磨きをしています。
- ③ 感染症に関する対応として「感染症マニュアル」を作成しています。保育中に感染症の疑いが生じた場合は保護者に連絡をして迎えを依頼しています。その他の発熱の場合は37.5度では様子を見知らせ、38度以上では迎えを依頼しています。発熱がなくても感染が疑われる発疹や嘔吐を2度した場合なども同様の手順を踏んでいます。園内で感染症が出た場合はすぐに保護者にお知らせボードで情報提供しています。職員は予防注射や手洗い、うがいなどで自己管理に努めています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【衛生管理】



- ① 日々の衛生管理については「衛生管理マニュアル」を作り職員全員で確認して実施しています。内容についての見直しは必要な事項が生じた時に行っています。嘔吐処理については内部研修を行い、全職員がその手順を習得し処理ができるようにしています。各クラスには嘔吐処理品が入ったバケツがありました。清掃に関しては今まで行っていたことを更に確認できるように、トイレは特にチェック方式にして清掃を行い、清潔に努めています。

II-2 健康管理・衛生管理・安全管理【安全管理】



- ① 事故や災害に備えた安全対策については「安全管理マニュアル」を作成し、全職員が確認しています。睡眠中の呼吸の確認チェック、プール活動時の見守り、食事中的食物のつまり等は職員の安全の見守りや発生時の対応法を身につけ安全対策を行っています。不審者を想定した防犯訓練や避難訓練は様々な場面、時間帯を想定して避難場所まで実際に歩く総合訓練や保護者参加型の伝言ダイヤル訓練、園が鶴見川の洪水浸水想定区域に入っているため、その避難訓練なども実施しています。
- ② 事故や怪我の発生時および事後の対応体制については発生時にすぐに園外活動中でも連絡できるよう保護者や関係機関の一覧をクラス担当職員が常備しています。また、怪我が発生した場合は軽傷でも保護者に報告しています。怪我の程度によってはその日に職員に伝え、改善策を検討し再発防止に繋げています。フード付きの洋服、髪留めゴム、タンズなどの角や落下物事故などの怪我を未然に防ぐため日誌の中にはヒヤリハット記入欄があり常に安全な保育を心がけています。ヒヤリハットがあった時には会議でも職員共通課題としており、内容により保護者にも伝えていきます。

- ③ 玄関は常時施錠し、保護者はカードで解錠しています。来園者はインターフォンの画像を確認してから解錠しています。警備会社と提携し緊急時には迅速に対応ができるようにしています。警察職員の協力を得た不審者侵入を想定した訓練を行っています。合言葉で子どもたちを安全な場所に誘導する訓練もしています。地域の不審者に関する情報は、鶴見区のほか、同じビルの1階のコンビニエンスストアからも得ています。

II-3 人権の尊重



- ① 保育中の子どもへの接し方で威圧的な言葉遣い、呼び捨て、無視、しかり方等で子どもの人格や自尊心を傷つけるような保育をしてはいけな事を職員に明示しています。職員は子どもの人格を尊重した声掛けや関わりを共通確認し、意識して保育を行っています。さらに必要な事項が生じた時は園長がプリントを作り読み合わせや職員会議で直接伝え、職員が日々子どもへの人格を尊重した保育を意識して行うように指導しています。
- ② 子どものプライバシーが守れるような空間については、自由遊びの場面で自分の遊びを邪魔されたくない場面には職員が察知してコーナーなどの空間が持てるように配慮したり、大きい段ボールで空間を作り1人でごっこ遊びを楽しめるよう設定するなど職員が見守りながら遊びが持続できるように工夫しています。また、必要に応じて保育士と1対1で落ち着いて話したい時は保育室の片隅や他の子がいない場所を作りプライバシーを守れる空間を確保する等の工夫をしています。
- ③ 個人情報の取り扱いについては運営規定の“取り組みのガイドライン”に載っており、全職員で共通の認識として保育を行っています。実習生やボランティアに対しても守秘義務を伝えていきます。また、個人情報の取り扱いについては保護者に説明して入園時に了解を得ています。個人情報に関する書類は施錠できるロッカーで保管・管理をしています。
- ④ 性差への先入観による役割分担意識を植え付けないように順番（出席簿は生年月日順）やグループ分け、持ち物や服装で性別による区別をしないよう意識しています。無意識に固定観念で保育をしている場面がないか、職員同士で確認するようにしています。

II-4 保護者との交流・連携



- ① 保護者が園の理念や基本方針を理解してもらえるよう、入園説明会や懇談会、全体会で説明しています。しかし、第三者評価にあたっての保護者アンケート結果では「この園の保育目標・保育方針をご存知ですか」の質問項目が、良く知っている、まあ知っているが71.5%で他の項目と比べ、低い結果が出ています。“園および職員はこういう思いで保育をしています”という園の保育の基本方針をさらに理解してもらえる方法を工夫していくことが期待されます。
- ② 個々の保護者とは送迎時や連絡帳を活用して、子どもの様子を伝えて情報交換を行っています。送迎時は子どもの表情や、さりげないやり取りを直接交わすようにしています。クラス全体では懇談会を行い保護者同士の懇談も含め情報交換をしています。それに加えて希望者は個別面談も行い保護者と連携をとっています。個人面談では保護者の希望により担任のほか、園長など2名で対応し、記録もとっています。
- ③ 保護者からの相談については、プライバシーに考慮した時間帯の設定、事務室前にカーテンで仕切ったスペースを作って対応しています。相談内容は個人面談記録に記録しています。立ち話で出たことでも内容によっては会議などに下ろし、職員が共通理解をしています。

- ④ 行事を含む保育内容に関する情報提供については毎月発行している園だよりで知らせています。保護者懇談会でも保育の内容を説明して情報提供をしています。廊下や事務所前などのホワイトボードを有効利用してその他のお知らせや行事を含めた1日の様子を写真やメッセージで保護者に伝えています。12月の発表会行事で職員が撮りためた日常の保育の様子動画上映をしています。園生活の様子がさらに詳しく分かると保護者に好評です。
- ⑤ 1年に1回保護者の保育参加を行っています。園生活を知ってもらう機会として参観ではなく、クラスの保育内容を体験する参加形式で行っています。子ども達と一緒に散歩に行ったり、ドッチボールで対戦したり、保育士に代わり紙芝居を読むなど親子で楽しむ場となっています。保護者自ら参加することで子どもの様子や保育の様子がよく分かると人気の行事で、殆どの保護者が参加しています。
- ⑥ 保護者の自主的な活動の援助については、保護者会のような組織はなく実際の援助はありませんが要請があれば協力して応えていく体制はできています。現在は姉妹園合同で行う運動会時に、保護者から手伝いの協力をいただいています。

Ⅲ 地域支援機能

Ⅲ-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供



- ① 地域への子育て支援事業として、登録制の一時保育を行っています。0～2歳児を対象に毎月第3水曜日の午前10時～11時30分（0歳児は10時～10時45分）に同じ年齢のクラスに入って遊び、給食も食べられる交流保育、夏のプール遊びや栄養士や看護師による講話をいずれも定員制で行っています。
- ② 園見学者や子育て支援事業の参加者からの相談を受け、地域の子育て支援ニーズの把握に努めています。地域の方に年12回、園に来ていただいて育児支援などを行っています。また、鶴見区の園長会、幼保小交流会などの会合に園長が参加し、情報交換会を行うなど、子育て環境の向上と地域ごとの連携や支援などについて意見交換を行っています。

Ⅲ-2 保育所等の専門性を生かした相談機能



- ① 園の掲示板で子育て支援の情報提供をしています。園見学者や子育て支援事業参加者からの相談を随時受けています。相談内容に応じ、必要な関係機関・地域の団体との窓口は園長とし、必要に応じて連携を図ることができます。育児相談などを、定期的な相談日の設定を行うことで相談しやすい環境などの検討が期待されます。
- ② 相談内容に応じて関係機関・団体との連携ができるようになっていきます。関係機関などをリスト化して職員にも情報共有しています。

IV 開かれた運営

IV-1 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ



- ① 屋上でプール遊びをする際には、予め近隣に手紙を配付し理解を求めています。また、誕生会には地域の親子の参加もあり、散歩先では一緒に遊ぶ場面もあります。5歳児が秋と卒園前の年2回小学校に訪問しています。授業参加や小学生と交流をしたり、和式トイレを知る機会にもなっています。また、中学校の職業体験を受け入れ、保育士の仕事を体験してもらっています。
- ② 4、5歳児が高齢者のデイサービスに出向き交流を図っています。地区イベントでは劇を行っています。公共交通機関を使い鶴見区内の姉妹園に行くこともあります。園の入口に隣接しているコンビニエンスストアからは地域の情報提供や災害時の対応などで協力頂くなど交流があります。

IV-2 保育所における福祉サービス内容等に関する情報提供



- ① 園の情報はホームページやパンフレットなどで最新の情報を提供しています。ホームページは、園情報のほか、見学会で質問が多いお散歩マップも掲載しています。パンフレットは目指している保育目標や主な行事、一日の生活を分かりやすく紹介しています。園外に設置した掲示板にも地域の親子向けの情報を案内しています。
- ② 利用希望者の問い合わせや見学については、園長または副園長が担当しています。見学会は予約制で10人程度で対応しています。パンフレットに沿って園の紹介や説明をした後各クラスを案内し、その中で質問を受けています。見学後に日を改めて育児相談に来園する場合にも対応しています。

IV-3 ボランティア・実習の受け入れ



- ① ボランティアの受け入れや育成については「ボランティア受け入れ規定」があり体制は出来ています。これまで掃除ボランティアの受け入れ実績があります。ボランティア受け入れの際は、受け入れ時の記録および感想や質問などが記録に残されていないので、記録を積み重ねて園運営に生かすことが期待されます。
- ② 実習生の受け入れについては“実習生を迎える指導保育士の心得”のマニュアルがあり、担当者はそれに基づき受け入れを行っています。効果的な実習ができるよう事前の打ち合わせで実習ノート、部分実習やクラス等プログラムを決めていきます。実習終了時は園長、担当職員による意見交換の場を設け感想や反省、質問などの反省会を行っています。

V 人材育成・援助技術の向上

V-1 職員の人材育成



- ① 園長はクラス編成、職員個々の経験年数など全体のバランスや本人の希望を考慮し、人員配置を行っています。人材の補充は法人本部に申し出をし、園長が募集をかけています。
- ① 園ではキャリアアップ研修への参加を含む研修計画体制を人材育成の計画としています。しかし、人材育成に対する考え方、個々の職員・主任に期待される役割、人材育成の方法、昇進・昇給の仕組み等の明文化について確認ができません。保育の価値観、知識、技術がトータルに身に着的ための人材育成の計画の策定が期待されます。さらに個々の職員の資質向上に向けた目標を毎年定め、達成度を評価していく取り組みに関しても検討が期待されます。
- ② 園内研修は年間計画でなく、虐待、マニュアルに関してなどその都度必要と思われる場合に設定をしています。外部研修は、横浜市のキャリアアップ研修が主で特定の職員が対象となっています。法人内の姉妹園同士の内部研修についても今後の検討課題としています。職員のさらなる人材育成を進めていくため、計画に基づいた園内研修の実施及び特定の職員に偏らない積極的な外部研修での学びの機会の提供が期待されます。
- ③ 非常勤職員の勤務時間などを考慮し、常勤職員と非常勤職員の組み合わせをしています。経験豊かな非常勤職員もおり、常勤職員を支えています。常勤、非常勤に関わりなく全職員が協力し役割分担をしながら責任を持って業務にあたっています。外部講師を招いての嘔吐処理は、全職員対象で実施しています。

V-2 職員の技術の向上



- ① 年間、月間の指導計画に対する自己評価のほか、毎月、保育サービス向上のための職員自己評価を行い、自らの保育を振り返っており、自己評価を計画的に行う仕組みになっています。今年度、第三者評価受審での自己評価にも取り組んでいます。
- ② 今年度、他園の公開保育に職員が参加し、縄跳び、ボール遊びの指導を受け、保育に取り入れています。警察の協力による不審者侵入訓練、外部の講師を招いた嘔吐処理講習で指導やアドバイスを受け、保育技術の向上につなげようとしています。
- ③ 指導計画作成時にねらいを記入し、その後保育実践を振り返り自己評価できる書式になっています。また、全クラスの日誌にも個別欄があり、子ども一人一人の育ち、意欲、心の動きなど、その瞬間やエピソードを日誌に丁寧に記録することを大切に、自らの実践を振り返り、積み重ねています。その積み重ねに基づき子どもたちの成長に合わせて次の指導計画を立てています。
- ④ 日常の保育が、保育理念、保育方針、目標、全体的な計画に沿って行われているかについて職員会議で話し合い、それらに沿って行われていることを確認しています。職員の自己評価、今年度受審の第三者評価での保護者アンケート、自己評価を通して園の課題をさらに明確にしていこうとしています。園の自己評価の公表は今後行う予定です。

V-3 職員のモチベーションの維持



-
- ① クラス運営に関しては、自分のクラスに何が必要なのか、子どもの発達に適切な指導になっているかなど職員は責任を持って対応しています。園長は職員に対し、常にオリジナル保育を身につけていって欲しいと話しています。判断が難しい場合の最終的な結果責任は、園長が負う体制になっています。
 - ② 園長との面談で満足度や要望などの把握に努めているほか、職員に気づきを与えるような言葉かけを心がけ、モチベーションの維持、向上への働きかけを行っています。
 - ③ 職員自身が仕事に誇りを持ちながら日々の業務を行うため、人事基準の明確化と職員への周知、園の方針・目標に基づく期待される職員像等、経験・能力や習熟度に応じた役割が期待水準として明記されること、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等評価した結果を職員に開示する仕組みなど、総合的な人事管理についての検討が期待されます。

VI 経営管理

VI-1 経営における社会的責任



-
- ① 職員が守るべき法・規範・倫理などは「就業規則」に示し、職員には入職時に説明しています。また、近年頻発している保育所あるいは子どもに対する不正、不適切な事案については、緊急会議を開催して、情報の共有、意識の再確認をしています。法人としての考え方についても職員に周知しています。
 - ② 経営、運営状況に関しては、求めに応じて公開することができています。環境に配慮する取り組みとして、廃材を利用して製作をするなど、保育に生かしています。保護者には廃材集めの協力をお願いしています。節電・節水なども実践しています。
 - ③ 園での環境への考え方、取り組み方の明文化をしていません。園としての地球環境の考えを示して取り組むと共に、将来に向けて子どもへの啓発を行い保育に生かしていくことが期待されます。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



-
- ① 職員の入職時に理念・方針・目標を明記した法人作成の手引きを配付しています。その他、園内掲示の確認、職員会議等で園長は常に意識づけを図っているほか、職員の発言や保育の姿勢からも理念、方針を理解しているか確認しています。
 - ④ 園長は法人内の鶴見ポケット保育園の園長を兼務しています。園在籍の副園長と連携を密に図り、運営に支障がないようにしています。職種に拘らず、子どもに関わる全職員を「保育者」として保育士（常勤・非常勤）、栄養士、調理職員、事務員、本部の看護師・担当者が日常的に連携を図り、子どもの育ちを支えています。
 - ⑤ 今年度、主任がクラスを持ちながらの勤務で、自主的な状況把握の場は持ちにくくなっていますが、職員同士が積極的にコミュニケーションや情報共有ができるよう、職員会議、乳児、幼児会議などの開催頻度を状況に応じて調整しています。さらに副園長、フリーの常勤職員と協力しながら個々の職員の業務状況を把握し、少しずつ指導や助言を行ったり、相談に乗ったりしています。

VI-3 効率的な運営



-
- ① 園長は、鶴見区の園長会、法人の役員会議（代表、姉妹園の園長、副園長、看護師）で事業運営にかかわる情報の収集をし、分析をしています。重要な情報は、職員会議で職員に周知しています。園の運営面での重要な改善課題は全職員で検討の上、改善に努めることとしています。
 - ② 園の中長期的な方向性としての計画と単年度の事業計画の作成がありません。園の事業の方向性を明確にして職員と共有していくための、計画の作成が期待されます。

利用者本人調査

調査対象

園全体の在籍数：

0歳児クラス：6名

1歳児クラス：8名

2歳児クラス：9名

3歳児クラス：11名

4歳児クラス：10名

5歳児クラス：7名

調査概要

《0歳児クラス》

(食事)

調理担当職員が食事を運んできます。椅子に座って絵本を見ている子どもたちに「〇〇ちゃん、絵本読んでるの?」「〇〇ちゃん、汗いっぱいかいたねー」と、穏やかに話しかけています。

配膳が終わると全員で「いただきます」をして食べ始めます。月齢の低い子どもには保育士が子どもの飲み込みを確認しながら援助しています。

散歩の帰りに眠ってしまい、保育士におんぶされて帰ってきた子どもも少し覚醒した様子です。「給食の匂い、いい匂いするね。少し目さめた?」と言いながら保育士は子どもが自分で食べる様子を確認しています。月齢の高い子どもは手づかみやスプーンを器用に使い、自分のペースで食べています。うどんばかり食べている子どもに保育士は「〇〇ちゃん、お野菜美味しいから食べよう」と促し、口元にカボチャを載せたスプーンを差し出しますが、その気分ではない様子で、口を開けず、うどんだけを食べています。

しばらくして、再度様子を見に行くと、他の子どもは食べ終わっていましたが、その子どもは食べています。保育士が「〇〇ちゃん、先生抱っこしてあげる」というと素直に抱っこされます。「人参だけ食べよう」と一口分を口元に運びます。子どもはやっと口を開け食べました。保育士は満面の笑みで「えらい、えらい。頑張ったね〜」とぎゅっと抱きしめます。子どももホッとしたように保育士にしがみつきます。

(午睡)

1歳児クラスとの仕切りのロールカーテンを降ろし、静かにBGMを流しています。ある子どもは保育士に抱っこされてタオルケットに包んでもらいトントンされますが、まだ眠くない様子です。他の子どもがそばにやってくると、隣同士に横になって保育士に体をさすってもらいます。時々笑顔が見えます。隣の1歳児クラスの気配はしますが、すでにスヤスヤ眠っている子どももいます。

《1 歳児クラス》

(散歩)

4名の子どもは立ち乗りバギー、2名の子どもは歩きで出発です。線路沿いをゆっくり進みます。電車が通ります。子どもたちは「でんしゃ」「ばいばい」「あかー」と嬉しそうです。右折をする車のために道の端で待っていると、運転者が笑顔で子ども達に手を振ってくれます。天気良く、日差しが強いため子どもから「あつーい」と声が出ます。「そうだね。とけちゃいそうだね」と保育士が返します。バギーで子ども同士小競り合いになると「〇〇ちゃん、それはいじわるだよ」と保育士が諭します。

目的地の広場に到着すると、子どもたちは思い思いのところにいきます。保育士がシャボン玉を作ると歓声上がり、子どもたちが追いかけます。「シャボン玉飛んだ〜♪」と保育士が歌います。

先に来ていた他の保育園の年上の子どもが「ほら」と袋いっぱいに入れたドングリを見せてくれます。保育士は「わー、いっぱい。どこにあるの？」と場所を教えてもらい、子どもたちとその場所に行きます。「ここで拾えるんだね」と言いながら、ドングリを探しますが、他の保育園児たちがたくさん拾ってしまったのでなかなか見つかりません。子どもたちも探しますが、難しい様子です。やっと保育士が1、2個見つけることができました。別の場所では大きな葉がついた枯れ枝を団扇や箒に見立てて遊んでいる子どももいます。

(午睡前)

保育室の一角で服を着替えます。一人の子どもが泣きじゃくっています。寂しくなった様子で時々「ママー」と呼びます。別の子どもが近寄って来るとしゃがんで顔を近づけて泣いている子どもの顔を覗き込み、頭を優しく撫でて慰めています。

《2 歳児クラス》

(クラスの朝の様子)

椅子に座って朝の挨拶をします。一人一人順番に名前を呼ばれると椅子から立ちあがり、保育士が手作りのマイクを子どもに渡します。受け取った子どもは「〇〇です!」と大きな声で名前を言ってお辞儀をします。「すごい。大きな声」と保育士は笑顔で褒めています。恥ずかしそうに「〇〇です」という子どもにも「よくできたね」とやはり褒めています。

(食事)

子どもはテーブルに着いて、自分で食事用エプロンを着けています。保育士はその様子を見ながら「手はお膝にして待っててね」と伝えます。給食の歌をみんなで歌って「いただきます」をします。「今日はみんなが大好きおうどんだね」「お肉とか、お野菜とか、いっぱい入ってて美味しそうだね」「かぼちゃ(副菜のあんかけ)もあるよ」など、保育士はテーブルを回り、話しかけながら子ども一人一人の喫食状況を確認しています。

「せんせい、みて」と子どもが大きな口で一口食べます。「素晴らしい!」と保育士が返します。食べ終わった子どもに「わー。今日は〇〇くんが一番だね」と声をかけています。別の子どもに「おかわりする?」と尋ねると子どもはコクンと頷きます。食の進みがのんびりな子どもには「〇〇ちゃ

ん、お手々引っ込んだじゃったね」と言いながら、一口分を子どもの口元に運びます。子どもは大きな口を開けて食べていました。

「ごちそうさま」をした子どもは自分の席で歯みがきをします。保育士は「仕上げしてもいい？」と子どもに確認してから行っています。

(排泄)

子どもはトイレの水を自分で流しています。トイレの床にマットが敷いてあり、子どもはそこに座って紙パンツやズボンを穿いています。上げきれなかったズボンのお尻部分は保育士がさり気なく直しています。

《3 歳児クラス》

(食事)

食事の前に子どもたちはトイレに行き、手を洗って保育室に戻ります。どの子もスムーズに自分で排泄を済ませています。その後自分の座るテーブルに箸箱とコップ、ぬれタオルを用意し席に座ります。保育士はまだ席に座ってない子へ声掛けして促しています。保育士が食事を配ると2人の当番が前に出ています。みんなで“お弁当の歌”を歌った後、手を合わせてお当番の「ご一緒にいただきます」の声で一斉に食べ始めます。子どもたちはおしゃべりしながら楽しそうに食べ進め、自分からおかわりを伝え、おかわりしている子どももいました。

食の進みがゆっくりな子どもに保育士が、自分で食べられる量を決めたので、頑張っておべようとお伝えしています。食べ終わった子は席で歯ブラシをはじめ、仕上げ磨きは保育士が行っています。

お昼寝の着替えも、殆ど保育士が手伝う事なく自分でしていました。着替えが終わった子どもから廊下の絵本コーナーで自分の好きな絵本を選んで読んでいます。

《4、5 歳児クラス》

(午前遊び)

朝の会が終わった後、散歩に出かけるまでの時間は4、5歳児合同でコーナー自由遊びをしています。机に座ってお絵描き、粘土、双六をする子どもや床でパズルやプラレールなどをする子どももいて、子ども達は思い思いに遊んでいます。しばらく遊ぶと散歩の時間になり、片付けをしてトイレを済ませ散歩の準備です。散歩台帳に担任が記入をして、園児14名と保育士3名で出発しました。

5歳児は4歳児を道路の内側にして手をつなぎます。車の通りが多い道でしたが副園長が旗を持ち、安全への配慮をしています。15分程歩いたところにある公園に到着しました。持参した縄跳びやアスレチック、ブランコ遊びなど4、5歳児が一緒になって思い思いに楽しんでいる様子がありました。特に、アスレチックをしながらの鬼ごっこは大盛り上がりでした。公園内の木の実を使って砂遊びをしている姿もあり、保育士はその中で一緒に遊んだり、安全への配慮を行い見守りをしたり、状況に合わせて声掛けをしていました。

(食事)

4、5歳児クラス別に座り、箸箱、口ふきタオルを横に置き食事の準備をしています。保育士は子どもたちに食べられる量を聞き、量の調整をしています。食事が配膳されると、当番が前に出てご飯の歌を歌い「いただきます」の挨拶のあと食べ始めました。

評価者と同じテーブルの子どもが、食べ方の説明やフルーツの食べる順番などを一生懸命に説明してくれました。

食事が終わると自分で食器を片付けて、個々に歯磨きを始めています。その後保育士の声掛けで席に戻りみんなでご馳走様の挨拶をしていました。

《朝の会》

全クラスが3階の4、5歳児クラスに集合します。2階の0～2歳児クラスの子どもは自分で歩いて階段を昇ったり、保育士に手をつないでもらったり、抱っこしてもらったりしながらやってきます。2～4歳児クラスは前のほうで立っています。1、2歳児クラスは保育室の入り口近くの両サイドのカーペットを敷いたところで保育士の膝に乗ったり、自分で座っています。「げんこつ山のたぬきさん～♪」を幼児たちが振りをつけて歌うと、低年齢の子どもたちも立ち上がって真似をします。まっかな秋、朝の歌とどれも振り付きで子どもたちの元気な歌声が保育室に響きます。体全体でリズムをとっている0歳児もいます。

会が終わり、クラスに戻ろうとする0歳児の頭を優しく撫でる幼児の姿があります。3～5歳児はそのままダンス教室で習ったアニメーション映画の曲に合わせて踊ります。3～5歳児それぞれ曲と振り付けが違いますが、どのクラスの振り付けも子どもたちは知っています。1歳児クラスは保育室に戻らずに、ダンスを楽しそうに見学しています。

家族アンケート結果

アンケートの概要

1. 調査対象

利用者の全家族

2. 調査方法

アンケートは評価機関で準備をして保育園から配布してもらいました。回答は家族から郵送にて直接に評価機関に送っていただきました。

3. アンケート発送数等

発送数：	46 通	返送数：	30 通	回収率：	65%
クラス：	0歳児： 4 通	1歳児：	5 通	2歳児：	7 通
	3歳児： 6 通	4歳児：	2 通	5歳児：	5 通

4. 全体をとおして

全ての利用者家族にアンケートを実施して、65%の回収率を得ました。保育園を総合的に評価する満足では、「満足」が76.7%で、「どちらかといえば満足」を含めると100%の家族が満足しています。

個別の項目では、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」については83.3%が「満足」で、「どちらかといえば満足」を含めると100%になっています。他にも「給食の献立内容」「基本的生活習慣の自立に向けての取り組み」「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」「園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供」や「あなたのお子さんが大切にされているか」などの職員の対応についてが、「満足」73.3%と高い評価を得ています。

その一方で、「年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているか」「遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組み」「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については、「満足」が46.7%にとどまっています。「外部からの不審者侵入を防ぐ対策」については、一部3.3%が「不満」と答えていますので、説明と理解が必要と考えられます。

施設への要望などの自由記入欄には「いつも丁寧に対応して頂いて感謝しております。」「とても楽しそうに過ごしていることが分かるのでとても満足しています。」と感謝の声と「引き継ぎがうまくされていない」などの指摘もあります。

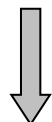
「あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか」「よく知っている」が17.9%にとどまっています。「まあ知っている」を含めた方の100%が「その保育目標や保育方針は賛同できる」と答えていますので、保育目標などの周知により、賛同者を増やし園を理解してもらうことが望まれます。

アンケート結果

■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存知ですか

1 よく知っている	3 どちらともいえない	4 あまり知らない
2 まあ知っている		5 まったく知らない



1	2	3	4	5	無回答
16.7%	53.3%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%

付問1 【「1 よく知っている」または「2 まあ知っている」とお答えの方】

あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

1 賛同できる	3 どちらともいえない	4 あまり賛同できない
2 まあ賛同できる		5 賛同できない

1	2	3	4	5	無回答
71.4%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
見学の受け入れについては	56.7%	23.3%	3.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	その他: 見学行っていない、見学していないため不明					
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	56.7%	36.7%	0.0%	3.3%	3.3%	0.0%
	その他: 見学・説明受けてない					
園の目標や方針についての説明には	63.3%	36.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんの生育歴などを聞く対応には	53.3%	40.0%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他: 面接なし					
保育園での一日の過ごし方についての説明は	63.3%	33.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
入園後に食い違いがなかったかなどもも含め、費用やきまりに関する説明については	66.7%	23.3%	6.7%	3.3%	0.0%	0.0%
	その他:					

問3 保育園に関する年間の計画について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
年間の保育や行事についての説明には	53.3%	40.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	46.7%	30.0%	6.7%	0.0%	16.7%	0.0%
	その他:よく分からない、要望をだしたことがないので不明、要望をきかれてない					

問4 日常の保育内容について

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
クラスの活動や遊びについては (お子さんが満足しているかなど)	63.3%	36.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	56.7%	43.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園のおもちゃや教材については (お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	63.3%	30.0%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:どのようなおもちゃで遊んでいるか知らない、					
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	56.7%	33.3%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	63.3%	33.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	46.7%	50.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:どういったことが取り組みなのか不明					

「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
給食の献立内容については	73.3%	23.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
基本的な生活習慣（衣服の着脱、手洗いなど）の自立に向けての取り組みについては	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	70.0%	23.3%	3.3%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:わからない、					
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	53.3%	20.0%	3.3%	0.0%	20.0%	3.3%
	その他:まだ始まっていない、これからなので不明、					
お子さんの体調への気配りについては	70.0%	30.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	73.3%	20.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問5 保育園の快適さや安全対策などについて

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
施設設備については	46.7%	50.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:基本満足だがやはり園庭がほしい、					
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	70.0%	26.7%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	46.7%	33.3%	10.0%	3.3%	6.7%	0.0%
	その他:					
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	63.3%	36.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					

問6 園と保護者との連携・交流について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	60.0%	33.3%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園だよりや掲示などによる、園の様子や行事に関する情報提供については	73.3%	23.3%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	70.0%	23.3%	0.0%	3.3%	3.3%	0.0%
	その他:					
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	53.3%	43.3%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%
	その他:					
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	63.3%	30.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
保護者からの相談事への対応には	66.7%	30.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:相談することがなかった					
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	66.7%	13.3%	3.3%	0.0%	16.7%	0.0%
	その他:経験したことがないのでわからない、残業ないので不明、遅くなったことがない					

問7 職員の対応について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答
あなたのお子さんが大切にされているかについては	73.3%	26.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	83.3%	13.3%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:					
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	46.7%	26.7%	0.0%	0.0%	26.7%	0.0%
	その他:わからない、アレルギーなし、不明					
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	76.7%	20.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他:					
意見や要望への対応については	70.0%	26.7%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%
	その他:要望していない、					

問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足しているか

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答
総合満足度は	76.7%	23.3%	0.0%	0.0%	0.0%

事業者コメント

事業者名：市場ポケット保育園

記入日：令和元年 12月 25日

開園4年目にして初めての第三者評価受審となりました。

職員一人ひとりに自己評価をしてもらい、問題点がどこにあるのかを認識することができました。その中で職員が話し合うことで意識も高まりました。曖昧だったことも、職員で話し合うことにより、新たな改善策にもつながったと思います。少しずつ課題が明確になっていくことで、更に職員同士の絆が深まっていったと思います。

保育はチームであること、決して単独では進めていけないことを更に深く、学ぶことができました。ワンチームですね。

職員が同じ方向を向いていき、そして迷いなく保育ができることで、職員の笑顔が子どもに伝わり、その結果が、良い保育につながると思います。

評価員の皆さまには、当日現場の保育の様子やヒアリングに基づき、保育内容や運営について丁寧に見て頂きました。今後の運営に生かせるよう努力したいと考えております。新たな課題につきましても、私たちもすぐに取り組み、更に保護者の方々に安心して頂ける園を作りたいと思います。

保護者の皆さまにはお忙しい所、アンケートにご協力頂き、感謝すると共に、皆さまから頂いたご意見やご要望については今後の運営に生かせるよう努力したいと考えております。満足しているという回答が約100%に近い評価を頂いたことは私たちにおいて何よりも活力になります。今回の受審結果を真摯に受け止めつつ、常に課題を持ちながら、更に保育の質にこだわり、保護者様や地域の方々と手を取り合い、ポケットの中にあるような温もり溢れる保育園になるよう努力して参ります。

第三者評価受審に際し、ご協力頂いた株式会社フィールズ様、細かな観察、ご助言頂き、そしてたくさんの評価内容をおまとめ下さったこと、ご多忙中の中、アンケートにお答えいただいた保護者の皆様に心より感謝を申し上げます。

市場ポケット保育園 園長 青木 真紀子



株式会社フィールズ

〒251-0024 藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3F

TEL : 0466-29-9430 FAX : 0466-29-2323